

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3071600518
法人名	社会福祉法人 平成福祉会
事業所名	かぐのみ苑湯浅グループホーム
所在地 (電話番号)	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2032-1 (電話) 0737-65-3636

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成 19年 9月 3日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算	12.2人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	3 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1		2 名	要介護2		7 名	
要介護3		5 名	要介護4		3 名	
要介護5		1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	78 歳	最低	71 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小野田クリニック、医療法人清真会 井上病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

苑長ほか職員とも一生懸命取り組んでいる。玄関は各ユニット毎に工夫がみられ、穏やかに過ごせる環境である。又、玄関は解放され、別のユニットからの訪問もあり、なごやかな雰囲気がある。ユニット毎にBGMが流れ、入居者の皆さんも落ち着き職員に見守られながら、自分のペースで生活され、楽しんでいられることが見受けられる。さらに複合施設の利点を生かし、デイサービスに慰問等があった場合一緒に参加されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食事の時音楽を流してはどうかとの指導もあり、BGMを流し取組みをしている。音量も適当である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価、外部評価を見直しの好機ととらえ、サービスの質の向上に向けての取り組みを考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議を利用して、理解を得られるように努力している。地域の人の関わりを増やすことや、小学生・中学生の訪問が受けられるよう取り組みは始めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情等に対して県運営適正化委員会のパンフレットの掲示、意見を入れるポストの設置により、対応が可能となっている。便りを発送し、情報を提供されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩、買い物等で地域の人々との関わりを持っている。自治会、老人会への参加を検討する等、地域との関わりについて積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、ホームの理念である「一人一人の生活史を知り残存能力を把握し、無理のない役割や出番を提供する」を玄関に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りの後、理念を唱和し、サービスの提供に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の社会福祉協議会が主催する喫茶コーナー(月1回)や、縫物サークル等の地域の住民等が自主的に活動しているサークル(月2回)に参加している。また、少人数ではあるが敬老会や文化祭等に参加し交流に努めている。	○	地域密着型として、積極的に老人会、自治会等に参加する等、更なる取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去2回外部評価を受け、評価結果を全員で共有し、業務改善を行っている。食事中、気持ちをゆったりとするBGMを流す等、改善への取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族代表、民生委員、町職員等で構成され、2ヶ月に1回開催している。会議では行事の報告、利用者の状況等の話し合いを行っている。	○	現在地元小学校との交流を検討中である。地域の人々との関わりを増やす努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状況や入所に関する相談等、町担当者との連携は密に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が面会に来られた時に、利用者の暮らしぶり等を報告している。また年4回「便り」を作成し、家族へ送付している。行事案内についても連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族等の意見、苦情等の把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力しないようにしている。問題が発生した場合は馴染みの職員が対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはグループホーム協会主催の外部研修への参加、中堅職員には毎月の勉強会、ベテラン職員には資格取得への費用負担(1回)等育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ参加しており、職員の相互交流を行うなど同業者との交流の機会を持っている。また、結果を会議で結果を報告されている。サービスの質の向上に向けての取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染んでいけるようにデイサービスやホームヘルプの利用から始め、ホームを自由に見学してもらい、利用にあたっては家族等と相談しながら行っている。また、デイサービスの時間延長をホームで支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理の準備や盛り付け、後片付け、食器洗い、洗濯物をたたむ等を通じて生活を共にし、信頼関係を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物等の外出を支援している。帰りたいという願望も散歩やドライブで対応している。利用者の顔つき等に気を配りながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員間でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また面会時には家族に要望等を聞き反映できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化があった場合は随時見直しを行っている。介護保険の認定時にも検討見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診は原則家族の方が行うが、困難なときは職員が支援を行っている。デイサービスへの大正琴等慰問時は併設のデイサービスの方も参加され交流を行う等、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が隔週、歯科は毎週の往診があり、適切な医療を受けられる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合等について職員間等で話し合いを行っていて、家族にも説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねる対応はしていない。書類は外部の目に触れないよう管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、希望にそった支援をしている。部屋で過ごすことの多い人は、過ごしやすいように部屋を充実し、居室の中が全部見えてしまわない様、ドアのガラス部分を工夫し利用者の様子を見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、下膳、食器洗い、後片付け等能力に応じて利用者と職員と一緒にやっている。利用者に合わせて一部別メニューにする等、支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基準としているが、入浴したくない利用者には足浴や清拭を実施し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	スーパーへの買い物や誕生日の夕食、ビデオ鑑賞等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、ドライブ、散歩、遠足等外出の支援を行っている。また、月1回は遠方へのドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいるが、玄関が国道に面しているため家族の了解のもとエレベーターは容易に使用できない。ユニット間は自由に往来ができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で避難訓練を年2回実施している。	○	年2回の避難訓練を消防署立ち合いのもと実施しているが、地域の住民との連携と協力を得られるように努力されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量・水分量はケース記録に記入し、栄養のバランスを考えメニューを作っている。また状態に合わせた形状を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中は静かな音楽を流し、手作りカレンダーや花を飾り、季節感がある。日光はブラインドで調整し、居心地良く過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたなじみの物が置かれているが、殺風景な居室もある。	○	殺風景な居室については、その人らしい環境作りを利用者と一緒を考えて工夫されることを期待する。